

「ラジオ小東京は、キリスト教番組ではない」とはつきり上手氏に断られた時の情景を、フーと思い出していた。だがある日、上手氏から事務所へ来るようにとの連絡があり行ってみた。何だかご機嫌斜めで、「何しに来た!」と怒鳴られそうにびくびくしていた。ラジオ放送を1952年に始め、日本から女優、俳優、有名人たちを呼んで、殺風景なLAに活気を与え、歌謡曲や数々のパーティーなどをし、市長やレーガン大統領からの感謝状も受けておられた。

何はともあれ、1カ月分テープに声を入れて送るよう言われ、早速『サンライズ聖書のみ言葉アワー』が誕生した。有賀喜一先生がLAにお見えになった時、先生の救いの証を声高らかに堂々とラジオから聖書のお言葉を流しつつ、大勢の日系人の救いを祈

り続けた。それからしばらくして、上手氏から会いに来るようにとの電話を受け、「嫌だなー、今度は相当頭にくるに違いない、あの方はキリストがお嫌いなんだから、これ以上ラジオ伝道はするな」と言われたら」と案じつつ、おどおどしながら行ってみ

南加キリスト教会連合

ラジオ小東京と上手亦男

岩田春子

た。その日は気分が良かったのか、「寿司でも食べに行こう」と誘われた。

うと思っていた。20代後半、人生の岐路に立たされ、姉の居るブラジルのサンパウロへ行ったことがあ

1世なのか、2世なのか正体の定まらないこのおじさん、一体何者? 愛想悪く、何だかズケズケ文句タラタラ、「小東京も昔は華やか

の神学校の学生で未だ卒業していなかったの、オレゴンへ帰り勉強を続けることにした。アメリカへの帰り際に、

エクアドルのキトウを尋ねた。そこにはアンドスの声で有名な尾崎先生ご夫妻が赤道をしておられた。ご夫妻はとも喜んで下さり、私を放送室に連れて行き、「何でもいいから話してごらんさい」とおっしゃった。わたしは、ブラジルの家族に「今エクアドルに居るから、心配しないでねー」とかなんとか言ってみ

族、親戚中を歩き回り、ビッグニュースになったとのことの後で聞かされ、涙が止まらなかったことを思い出した。後で分かったことだが、上手氏があれほど食べ物に文句を言うのは、彼は、包丁さばきが良く、料理もまるやか

スタールで育てられて来た。父は最近ナースングホームに入り、孤独で悩んでいる」との事であった。かつて上手氏は「自分の家は長年自分たちの宗教がある、変えるわけはいかない」とおっしゃっておられた。

しゃっておられます」彼は讚美と祈りは受け入れたが、未だに家の今迄の習慣から抜けきれないようであった。ピビアンさんのご主人も一生懸命伝道し、ついに、見事に、罪を悔い改め、キリストの十字架の身代わりの死を理解し、主を救い主と受け入れ信じたのであった。彼は勝利を握り、孤独からも解放されたのである。

甥の吉春は周囲は森林に囲まれ、昼間でも異様な動物や鳥の鳴き声が唸っており、何遍もヘビに噛まれもう慢性化しているという。そのような所に小さな掘った小屋を建て一人で住み、何百ヘクター

2002年ある日突然、上手氏の娘さんのピビアンさんから、リトル東京で逢ってお話があった。父とよく行っていたという。父とよく行っていたという。父とよく行っていたという。父とよく行っていたという。

最初は固い表情だったが何回か行くうちに、「僕は何回か行くうちに、僕はいろいろな人たちの世話ばかりして来たのだが、こういう所に入ってきた事は、誰一人見舞いなど来てはくれ

2004年4月10日、主の御臨在濃厚なお葬式を執行した。後で、ラジオ小東京とは何のためだったのか考えてみた。それはたった一人の人を救うために神がご企画なさった摂理であった事に気がついた。『たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損した

の唯一の生きた甲斐で40年近くも続けてこられたが、母が亡くなってからは、心のよりどころを無くしている。母が熱心なクリスチャンに

2004年4月10日、主の御臨在濃厚なお葬式を執行した。後で、ラジオ小東京とは何のためだったのか考えてみた。それはたった一人の人を救うために神がご企画なさった摂理であった事に気がついた。『たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損した

の唯一の生きた甲斐で40年近くも続けてこられたが、母が亡くなってからは、心のよりどころを無くしている。母が熱心なクリスチャンに

の命を損した。『たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損した。』(マタイ16:26)

(サンライズ教会牧師)